

# 地域連携センター報

REGIONAL COLLABORATION CENTER

Vol. 44

令和7年3月発行

県立広島大学

Prefectural University of Hiroshima



Mihara



## 第1回予防接種行政フォーラム&ワークショップを開催しました

主催：県立広島大学 三原地域連携センター  
共催：三原市

参加費 無料  
オンライン 配信あり  
会場・オンライン グループワーク あり

市町村行政関係者向け  
第1回  
予防接種行政  
フォーラム&ワークショップ

予防接種行政とワクチンに関するフォーラム&ワークショップ

この日は、県立広島大学三原地域連携センターが主催の自治体の予防接種行政担当者向けに「第1回予防接種行政フォーラム&ワークショップ」を開催しました。これは、自治体、大学の教員等が行政の現場で「予防接種行政とワクチン」について理解を深め、互いに学びあう機会が求められています。この機会に、県立広島大学三原地域連携センターとして企画し、三原市と連携し開催するものです。会場参加だけでなく、今後導入予定の「予防接種データベース」について県立広島大学三原地域連携センターの職員が、グループワーク等も実施しています。参加者の参加を歓迎しております。

令和6年  
8月30日  
10:00-16:00

会場：三原市中央公民館大講堂+オンライン会場

当日、会場より  
オンライン配信も  
予定しています。

申し込み方法：HPの申し込みフォームから、またはHPより申し込み用紙をダウンロードして記入の上FAXにてください。  
・ <https://hvp.pu-hiroshima.ac.jp/vac2024> FAX：0848-60-1273

申し込み期限：令和6年8月29日(木)正午  
申し込み用紙の送付先：〒731-8585 県立広島大学三原地域連携センター TEL：085-715-9299

申し込みは速速へ

8月30日に本学三原地域連携センター主催、三原市共催、広島県・県内全市町・三原市医師会・三原薬剤師会の後援のもと全国の予防接種行政担当者に向けて「第1回予防接種行政フォーラム&ワークショップ」を三原駅前スペースサテラス

自治体間でも共有でき、今後導入予定の「予防接種データベース（仮）」の意義と運用について説明がありました。

後半のワークショップ部分ではワクチン管理の先駆事例について三原薬剤師会より紹介があり、続いてWeb会議システムやクラウド上のファイル共有を併用しながら、予防接種行政に関するグループワークを実施し、参加者の間で意見交換と討論が行われました。また、まとめでは、参加した自治体担当者から質問が多く寄せられ、講師が質問への回答とディスカッションが行われました。

約200自治体から約520名（オンライン参加約500名、現地参加約20名）の申し込みがありましたが、当日はあいにく九州から中四国地方が台風直撃となる悪天候となり、自治体の多くが避難所開設や災害発生準備段階であったため参加者は400名程度でした。その後、この台風の対応で参加ができなかった自治体の多くからオンデマンド配信の希望があり、オンデマンド配信を行いました。

今回のフォーラム&ワークショップでは参加した市町村の担当者が予防接種行政に関する知識だけでなく、参加した自治体における課題や予防接種推進のための工夫等も共有できる機会にもなりました。

より配信しました。予防接種行政はCOVID-19等の新興感染症対応や新規のワクチン導入、接種スケジュールの変更などで必要な知識が多く、研修等の機会も設けられていますが、多くの自治体が最新の状況や法律の解釈、運用について常に情報を得ておきたいというニーズに応じて実施しました。

冒頭、三原市長、広島県CDC担当課長、三原地域連携センター長の挨拶の後、前半のフォーラム部分では、ワクチンに詳しい小児科教授、厚生労働省の疫学担当者、子宮頸がん予防に詳しい産婦人科教授、予防接種行政に関する法律に詳しい弁護士が講演を行いました。次に厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部予防接種課課長補佐より予防接種の履歴などを

## 令和6年度履修証明プログラム活動報告

三原地域連携センターでは、公開講座等を活用して教育研究成果を提供していましたが、令和4年度からより積極的な社会貢献を促進するため、社会人等を対象とした学習プログラム【履修証明プログラム】を開設しています。今回は本年度開講した2つのプログラムについてご紹介します。

プログラム名称：主任介護支援専門員を対象とした  
スキルアップ講座「スーパーバイザー・レベルアップ講座」

プログラム責任者：人間福祉学コース・教授・金子 努

主任介護支援専門員を対象とした令和6年度履修証明プログラムについては、7月6日に開講し、本年2月11日までの全12講座を実施しました。受講者は、現任の主任介護支援専門員5名でした。

本プログラムは、保健福祉学部の特性を活かした企画となっています。第1回講座「ストーリーによる個人と社会の理解」(作業療法学コース・吉川ひろみ教授、他3名による)では座学だけでなく、実際に身体を使ったゲームやロールプレイ、即興劇を行うことで、思考の柔軟性を養ったり、共感することの意味を考える講座となっています。何より、この講座により受講者同士の距離が短時間で縮まり、2回目以降の講座受講を円滑に進めることができました。

また、理学療法学コース・飯田忠行教授と作業療法学コース・田中睦英准教授による「骨を知り、骨折予防を考える」では、初めて自身の骨密度を測定する体験を通して、骨折予防を我が事として学ぶ講座となっています。そして、コミュニケーション障害学コース・坊岡峰子教授、他3名による「高齢者のコミュニケーション障害と摂食嚥下障害」では、日頃聞く機会が少ない言語聴覚士からの専門的な知見を学ぶ講座となっています。

近年、主任介護支援専門員には一事業所、一機関にとどまらず、地域レベルでのスーパーバイザーとしての役割が期待されています。そうした役割を果たすべく、人間福祉学コースの教員等により「地域共生社

会を実現するためのインフォーマル・ケア活性化」・「多問題世帯のアセスメントと介入法」・「事例を用いたグループスーパービジョンの方法と実際」と題した講座を提供しました。いずれの講座も受講者の満足度が高く、受講修了後は学んだことを現場で活かすことが期待されます。

令和7年度で3回目を迎える履修証明プログラムですが、これまでの修了生のなかには本学大学院へ進学した受講生も複数おり、学び直しの機会にもつながっています。



〈受講生と金子教授（後列中央）〉

プログラム名称：Family Reconstruction Support Program  
(家族再構成支援プログラム)

プログラム責任者：人間福祉学コース・准教授・大下 由美

本プログラムは、3部構成を1年間で学ぶプログラムです。今年度で3期目になります。定員は5名の少人数で実施し、履修された方の専門分野は、福祉分野や医療・介護分野など、職種もソーシャルワーカー、看護師、手話通訳士、児童福祉司とさまざまです。

このプログラムの特徴は、日常の実践に活かせる知識と技術を獲得できることです。たとえばプログラムの第1部では、家族を地域社会との関わりの中で理解する生成的システムズ理論を学びます。この理論を学ぶことで、生活場面の問題が関係性の問題であること、特に専門家の言動が、家族に与えているマイナスの影響についても理解することができます。第2部では、家族が訴える問題を解決するための具体的な知識と技術について学びます。その過程で、これまでの自身の面接の課題について振り返ることができ、新しい技術は、ロールプレイで身に付けていきます。そして第3部では、履修者が担当する事例を検討する形で学びを深めます。自身の面接の逐語記録を作り、家族の問題の生成メカニズムの評定、変化を作り出すための支援計画の作成、そして技法選択と具体的な面接展開を体験的に学んでいきます。

また、このプログラムは、個々の専門家の実践のレベルを上げるだけではなく、多職種による包括的支援の新しい実践にもつながっています。例えば、昨年度の履修者は、重複障害のある家族の多職種支援チームの構成員となり、効果的な支援を展開しておられます。本プログラムを履修されているので、多職種でも同じ理論基盤をもって支援にあたる事ができています。そのため、各専門職のサービス提供活動が、家族の問題解決力の向上にいかにか寄与しているかを、相互に理解し、助言しあえる関係が築けています。

学修内容はハードだと思いますが、地域で家族支援に関わっておられる多くの専門家の皆さんとこのプログラムでお会いできることを期待しています。



〈講義中の一コマ/大下准教授（中央奥）〉

## 「青少年育成カレッジ」総合講座 「活動に「世代間交流」の視点を取り入れてみよう」

本学部は公益社団法人青少年育成広島県民会議と連携し、毎年「青少年育成カレッジ」を開講しています。本講座は広く青少年に関わる活動や仕事をしている方、青少年育成活動に関心のある方を対象に青少年の心と健康、行動などを理解し、すこやかに育むための知識や手法を学ぶことができる講座となっています。

本年度は、11月16日サテライトキャンパスひろしまにて、保健福祉学部人間福祉学コース・伊藤泰三講師が「活動に「世代間交流」の視点を取り入れてみよう」について開講しました。

「世代間交流」とは、異なる世代の人々が交流し、お互いの経験や知識を共有することを指します。

午前の部では「世代間交流」の定義や必要性の紹介を行い、「地域共生社会」との関連を含め受講者とともに考えました。また、午後の部では実際に行われている「世代間交流」の事例紹介（幼老複合施設・こども食堂等）から、受講者が実際に関わっている活動に「世代間交流」の視点を取り入れたイベント案を作成する演習を行いました。

受講者からは「身近なテーマで取り組みやすかった。」、「他の参加者の意見や各地域の情報を聞くことができ、有意義だった。」とのご意見をいただきました。



## JFA フットサルフェスティバル2024in 安佐北 「エンジョイ女子フットサル」・Fリーグ公式 戦における学生ボランティア活動

11月30日に開催された表題イベントに、保健福祉学部包括協定先である NPO 法人中国フットサルプロモーションからの依頼を受け、本学部理学療法学コースの学生 19 名がボランティアとして参加しました。

広島エフ・ドウは、中国フットサルプロモーションが運営する日本フットサルリーグ所属チームです。本学保健福祉学部は、中国フットサルプロモーションと令和5年2月に「包括的連携協力に関する協定書」を締結しており、学生が教員とともに選手のコンディショニングサポートやイベント運営に携わっています。

午前中は JFA フットサルフェスティバル 2024in 安佐北「エンジョイ女子フットサル」が開催され、会場設営およびボールボーイ等の運営補助を学生は体験しました。また、午後からの F リーグ公式戦についても、運営並びに設営・撤去作業の補助を体験しました。公式ホーム戦が最後ということもあり、通常より多くの観客が訪れたため、本学学生は大きな手助けとなったと運営代表者からお礼の言葉を得ることができました。

今回のボランティアでは、地域イベントの運営補助や地域参加者との交流を体験することができ、学生にとってはかけがえのない経験になったことと思います。この機会を与えていただいた運営スタッフと選手の皆さまに感謝申し上げます。



## 編集後記

地域連携センター報第 44 号をお届けします。

本号では第 1 回予防接種行政フォーラム&ワークショップ、履修証明プログラム、青少年育成カレッジ、学生のボランティア活動等について紹介しています。

三原地域連携センターは、昨年度に引き続き、本年度も最終号を担当することとなりました。編集作業をしながら、1 年を振り返りますと、個人的に印象深かった事柄として、昨年 8 月末の台風 10 号があります。この影響により第 1 回予防接種行政フォーラム&ワークショップ、公開講座の開催が危ぶまれました。台風の進行速度が遅く、進路が日々変わるため、連日台風情報を確認する日々でした。広島県内は大きな被害はなく、胸をなでおろしましたが、台風等の災害時における公開講座等のイベント開催判断の難しさを学ぶこととなりました。

今年度の様々な反省点を次年度に活かし、今後も地域の皆様と協働で連携活動を推進して参りますので、引き続きご支援とご協力をお願いいたします。

## 編集発行

県立広島大学地域基盤研究機構地域連携センター  
〒734-8558 広島県広島市南区宇品東 1 丁目 1 番 71 号  
電話 (082) 251-9534/E-mail:renkei@pu-hiroshima.ac.jp  
<https://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/renkei/>

## 各キャンパス問い合わせ先

地域基盤研究機構庄原地域連携センター  
〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562 番地  
電話 (0824) 74-1000/E-mail:gakujutu@pu-hiroshima.ac.jp

地域基盤研究機構三原地域連携センター[本号編集担当]  
〒723-0053 広島県三原市学園町 1 番 1 号  
電話 (0848) 60-1120/E-mail:mrenkei@pu-hiroshima.ac.jp